PRESS RELEASE

公益財団法人日本ライフセービング協会
2024年5月31日

報道関係者各位

国際ライフセービング連盟、『2032年ブリスベンオリンピック競技大会』へ ライフセービング競技の初採用を目指すことを表明 ～日本ライフセービング協会も表明に賛同～

公益財団法人日本ライフセービング協会（以下JLA　東京都港区海岸2-1-16 鈴与浜松町ビル７F、理事長/入谷拓哉）は、2024年4月19日、国際ライフセービング連盟(以下ILS, International Life Saving Federation)およびサーフ・ライフセービング・オーストラリア(以下 SLSA, Surf Life Saving Australia)が共同で、2032年ブリスベンオリンピック競技大会へのライフセービング競技の初採用を目指すロビー活動を行う発表をうけ、活動への賛同を表明します。

2032年ブリスベンオリンピック組織委員会が決定する追加競技種目に採用されるにあたり、ILS会長のグラハム・フォードは、国際的にも成長を続けるライフセービング競技は「国際オリンピック委員会のビジョンである“スポーツを通じてより良い世界を築く”と完全に合致しており、私たちのスポーツに参加するすべてのメンバーは、トップレベルの競技だけでなく、ボランティア団体での人道的活動を通じて人命救助に尽力しています」と述べ、新たな競技会場建設が不要であることや人道主義に通じる競技内容としての採用を目指す表明をしました。

オーストラリアでは、これまでライフセービング競技を通じて育成された選手が、カヤック、競泳、オープンウォータースイミング、ボート、冬季種目のスケルトンなど、オリンピックの他競技の世界トップクラス選手を輩出してきました。SLSA 会長のジョン・ベイカーESM AMは、競技採用を通じて「ライフセービング競技選手たちがオリンピックの夢を追い求めるために、このスポーツを離れずにすむような道筋を作りたいと考えています」と述べています。

今年８月２３日～９月８日には、オーストラリア・ゴールドコーストにて2年に１度開催される世界ライフセービング選手権大会を通じて、更なるロビー活動を　実施する予定です。

【採用を目指す競技】

オーシャンM競技 ＜男女別個人レース・男女ミックスリレーレース＞

スイム・ボード・サーフスキー・ランの競技を決められた順番に、海に浮かべられたブイをM字型に周回するレースです。1人でスイム・ボード・サーフスキー・ランの全てをこなす男女別個人レースと、男女ミックスのチームで行うリレー形式のレースがあります。リレーでは、男女どの選手がどの競技を採択するのか、チームの作戦によるため、レース途中で順位の入れ替わりも激しく、最後まで勝敗が予測できない、見応えあるチームリレー競技です。数あるライフセービング競技の中から、この競技で採択を目指すことは、性別関係なく、協力して、誰よりも早く、正確に、「人の命をつなぐ」というライフセービングの本意を示すことにつながります。

取材お申込・お問い合わせ
日本ライフセービング協会事務局　水川（みずかわ）　TEL.03-6381-7597(平日12:00-18:00)
E-mail： press@jla.gr.jp

PRESS RELEASE

【ライフセービング】
水辺の事故ゼロをめざして
水辺における安全知識と技能を広め、誰もが安全に楽しむことのできる社会へ。

ライフセービングとは、人命救助を本旨とした社会的活動であり、一般的には水辺の事故防止のための実践活動として普及・発展してきました。ライフセービングは単に救命活動のみで完結するものではなく、救命の実践を重ねながら自他の生命を見つめ、すべての生命に対して「慈しみ」を有する活動で、その活動の根本にあるものは生命の尊厳です。

ライフセービングの活動は、溺れた者を救うという救助活動から、溺れない安心な環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理も含めて、総合的に安全を提供できる活動としても大きな期待が寄せられており、ライフセービングを通じて人と人とが支えあい、安心して暮らせる社会の仕組みづくりに貢献していくことも大切な使命です。

日本ライフセービング協会（JLA）は、国際組織である国際ライフセービング連盟（ILS）の日本代表機関として、2001年にNPO法人となり、2019年から公益財団法人として新しいスタートをきりました。現在では、全国に30都道府県協会と多くのクラブが設立され、認定資格を持つライフセーバーが活動しています。水辺での人命救助・監視活動はもちろん、新しい救命救助技術の普及、さらには学校教育への導入など、水辺の事故から犠牲者を一人でもなくすべく、JLAは「人と社会に変革をもたらす」法人として、「教育」「救命」「スポーツ」といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。

【ライフセービングスポーツと競技】
生命を救う（守る）スポーツ

1908年（明治41年）、オーストラリアでライフセービング競技は誕生しました。その生まれた理由は「溺れた者を救いたい」、まさにこの一点です。

ライフセービング競技の場合は「より速く」を求める以上に「より正確さ」も求め、その速さと正確さが「苦しみある者への限りない安心感と絶望なる生命の生還を願う」スポーツとして、その勝利は「生命の尊厳」に他なりません。まさに、ヒューマニズムに根ざしたスポーツとして、その真意は勝敗をも超越した「生命を救う（守る）スポーツ」であり、「今、そこにいる人間が救う・守る」という哲学を有しています。こうして生まれたライフセービング競技は「自己目的なスポーツであるのみならず、人道主義に基づいた人命救助という目的をも兼ね備えており、そのことこそライフセービング競技の意義の一つである」といえます。ライフセービング競技は、レスキュー活動のための救助技術や体力の維持・向上を目的としているため、その種目要素は実際の救助活動をシュミレーションしたものがベースとなっています。

またILSは、国際オリンピック委員会や国際スポーツ連盟機構、国際ワールドゲームズ協会といった国際スポーツ組織の公認組織であり、ライフセービングスポーツという側面から世界的な普及に寄与しています。

JLA加盟クラブ数	**166**
加盟クラブに所属する登録者総数	**11,390名**
競技会選手登録者数	**約 1,850名**
ハイパフォーマンスチーム（強化指定選手）	**49名**

2022年ライフセービング世界選手権大会
オープン日本代表チーム
参加50カ国中　総合7位（歴代最高位）

生命を守るスポーツ、ライフセービングスポーツの魅力を世界中に広めるため、日本ライフセービング協会は、2032年ブリスベンオリンピック競技大会でのライフセービング競技初採用をめざしています。

日本では、今年で第50回を迎える全日本選手権をはじめ、数多くの国内競技会が盛大に開催されています。様々な海のコンディションの中、強靭なアスリート達が泳ぎ、走り、パドリングする。更に波を超え、波に乗って戻ってくる姿は圧巻です。ライフセービングスポーツは単なる競技にとどまらず、海やプールでのトレーニングを通じて、救助するために必要な知識と優れた技術やチームワークにつながります。オリンピックは世界各国のトップアスリートが集まる場であり、ライフセービング競技の採用によって、ライフセービングの意義と価値を証明する絶好の機会となるでしょう。ライフセービングスポーツの魅力を世界中に届け、さらなる発展を遂げるため、私たちの挑戦を応援していただければ幸いです。

2024年5月31日
公益財団法人日本ライフセービング協会
理事・ライフセービングスポーツ本部長
田村 憲章

取材お申込・お問い合わせ
日本ライフセービング協会事務局　水川（みずかわ）　TEL.03-6381-7597(平日12:00-18:00)
E-mail： press@jla.gr.jp